

平成26年度温室効果ガス総排出量の報告について

市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第20条の3に基づき策定が義務付けられている地方公共団体実行計画(事務・事業編)として、「第2次上天草市地球温暖化対策実行計画」を策定し、本計画において事務・事業によって生じる温室効果ガス排出量の平成28年度までの削減目標を定めています。

この度、各所属等の温暖化対策実行計画推進員からの平成26年度の調査結果をとりまとめましたので、計画の概要と併せて次のとおり報告します。

1 計画の期間

平成24年度から平成28年度までの5年間

2 削減目標

市の事務事業から排出される温室効果ガス排出量を基準年度(平成22年度)比で、目標年度(平成28年度)までに5%削減すること。



3 計画の対象範囲

原則として、本市におけるすべての事務事業を対象とします。具体的には次に示す施設です(ただし指定管理施設等は除く)。

部局等	施 設 名
総務企画部	○大矢野庁舎(書庫棟含む)
経済振興部	○上東排水機場 ○広崎排水機場 ○荒木浜排水機場 ○荒木浜第2排水機場 ○今津排水機場 ○阿村排水機場 ○米山排水機場 ○合津排水機場 ○今泉排水機場 ○西新田排水機場 ○後山排水機場 ○小屋河内漁港 ○ 漁業者体育センター ○大道漁村広場 ○牟田漁港公園 ○下貫漁港 ○農 林水産物加工品開発研究センター ○天草四郎メモリアルホール
建設部	○江樋戸港待合所 ○東風留待合所 ○海遊公園 ○マテガ浜 ○道路外灯 等 ○合津終末処理場 ○カントリーパーク花海好 ○污水マンホールポンプ場 ○市営住宅街路灯 ○コミュニティプラント
市民生活部	○維和出張所 ○湯島出張所 ○松島庁舎 ○阿村出張所 ○教良木河内出 張所 ○姫戸地域振興センター ○龍ヶ岳地域振興センター ○樋島出張所 ○大道出張所 ○斎場

健康福祉部	○湯島診療所 ○合津保育園 ○教良木保育園 ○高戸保育所 ○樋島保育所 ○大道保育所 ○和光園
教育委員会	○登立小学校 ○上小学校 ○中北小学校 ○中南小学校 ○維和小学校 ○湯島小学校 ○阿村小学校(ナイター含む) ○今津小学校 ○教良木小学校 ○姫戸小学校(ナイター含む) ○龍ヶ岳小学校 ○大矢野中学校 ○維和 中学校 ○湯島中学校 ○阿村中学校 ○松島中学校 ○姫戸中学校 ○龍 ヶ岳中学校(ナイター含む) ○農村婦人の家 ○上公民館 ○中公民館 ○湯 島談合会館 ○北部地区グラウンド ○ふれあい広場体育館 ○山村広場健康 増進施設 ○山村広場グラウンド ○姫戸体育館 ○姫戸運動広場 ○龍ヶ岳 体育館 ○龍ヶ岳グラウンド ○旧樋島小学校グラウンド ○旧大道中学校グラ ウンド
水道局	○大渦ポンプ場 ○倉江浄水場 ○下貫浄水場 ○阿村浄水場 ○湯島浄水 場 ○中継ポンプ他 44 か所
病院	○上天草総合病院 ○介護老人保健施設きらら ○健康管理センター ○看護 専門学校 ○教良木診療所

4 平成 26 年度の温室効果ガス排出量結果等

- 対象範囲における平成 26 年度の温室効果ガス排出量は、4,914,759kg-CO2 です。
- この排出量は前年度と比較して約 6%減少、基準年度(H22)と比較して約 16%増加しています。

平成 22 年度からの平成 26 年度までのエネルギー使用量及び資源使用量の状況は図1のとおりです。
どの種別においても概ね減少しているものの、灯油及び軽油については基準年度比で増加しています。

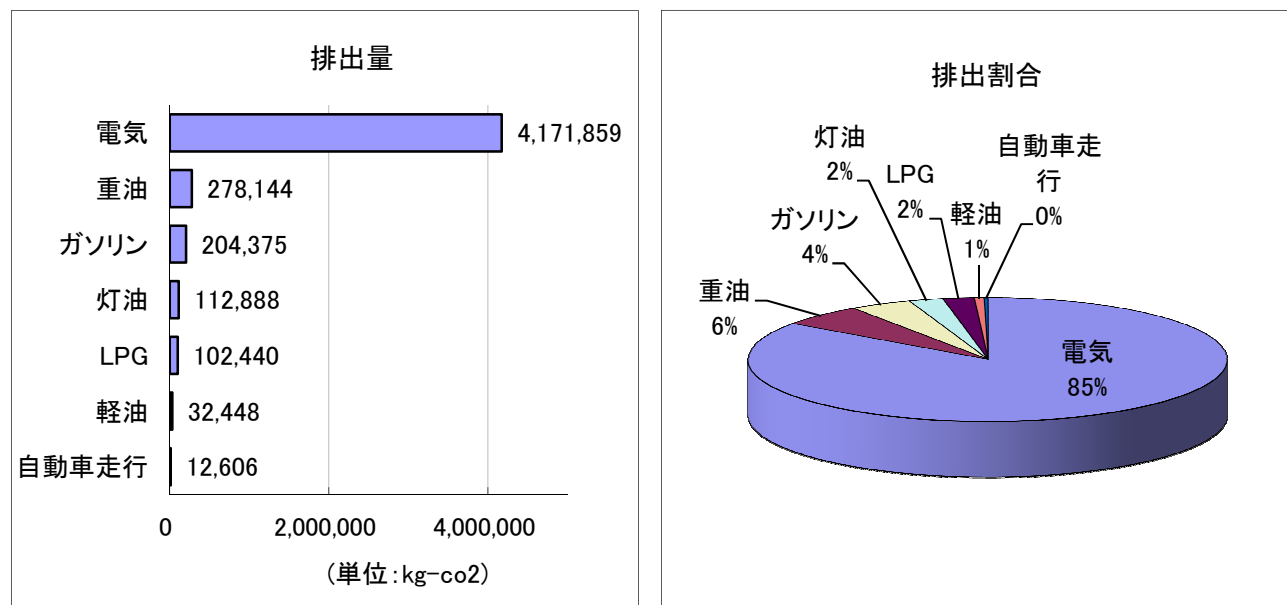
図1 エネルギー使用量及び資源使用量状況

種別		H22	H23	H24	H25	H26	増減率 (前年度比)	増減率 (基準年度比)
エネルギー	電気(kwh)	8,026,136	7,580,562	7,394,604	7,346,399	6,803,358	-7.4%	-12.5%
	重油(L)	252,680	245,270	215,740	112,600	102,650	-8.8%	-59.4%
	灯油(L)	26,118	41,301	50,497	48,982	45,346	-7.4%	73.6%
	LP ガス(kg)	73422	69314	78135	74042	33009	-55.4%	-55.0%
	ガソリン(L)※公用車分	97,172	90,695	89,293	81,346	87,937	8.1%	-9.5%
	ガソリン(L)※公用車を除く	1,195	1,445	624	649	93	-85.7%	-92.2%
	軽油(L)※公用車分	8,391	9,796	8,896	10,088	10,610	5.2%	26.4%
	軽油(L)※公用車を除く	1,299	1,820	2,671	890	1,778	99.8%	36.9%

資源	水道水(m³)	151,618	143,288	137,810	139,082	129,322	-7.0%	-14.7%
	井戸水(m³)	4,043	4,043	4,230	4,230	1,116	-73.6%	-72.4%
	紙(枚)	9,745,823	5,771,590	4,795,151	4,247,045	3,291,792	-22.5%	-66.2%

平成 26 年度の排出原因別の温室効果ガス排出量は図2のとおりです。電気における排出量が特に多く全体の8割以上を占めています。

図2 排出原因別の温室効果ガス排出量及び排出割合



5 総括

基準年度と比較して温室効果ガス排出量が増加している要因として、東日本大震災後、火力発電への発電量が増加したことに伴い、排出量算定に用いる二酸化炭素排出係数が依然として高い水準にあることがあげられます。

仮に、基準年度における排出係数に置き換えて算出した場合、排出量は基準年度比20.7%の削減となります。排出量は増加しているものの、エネルギー使用量(図1参照)は概ね減少しているため、今後も引き続き、全庁的な節電対策・省エネ対策を進めていきます。